

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 29 年度 前期 Tadimitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	中司寛子	会員番号	0034294	
申請者の所属・職名	慶應義塾大学医学部 微生物学免疫学教室・特任助教			
出席会議名	IMMUNOLOGY2017			
発表論文タイトル	TET2 and TET3 regulate stability and function of regulatory T cells.			

実施結果:

この度は、Tadimitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠にありがとうございました。岸本忠三先生、選考委員の先生方、また本賞にご推薦いただきました吉村昭彦先生に深謝致します。

本賞によるご支援のもと、5月12日から16日まで、アメリカ合衆国ワシントンDCで開催されたアメリカ免疫学会 (IMMUNOLOGY2017) に参加しました。本学会にはアメリカ国内外から多くの免疫学者が集い、レベルの高い研究報告と活発な議論が行われました。免疫学の幅広い分野においての最新の知見を得ることができ、非常に有意義なものでした。

申請者は、制御性 T 細胞 (Treg) におけるエピジェネティック制御についてポスター発表を行いました。これまでに、Treg の安定性はそのマスター転写因子である Foxp3 の発現そのものではなく、Treg 特異的な DNA 脱メチル化というエピジェネティック制御が重要であるということが報告されていますが、申請者は実際に DNA 脱メチル化酵素である TET が Treg の安定性や機能に重要な役割を果たすということを、ノックアウトマウスの解析から明らかとしました。参加者とのディスカッションを通して、今後の研究に対する貴重な助言を得ることができ、また免疫学におけるエピジェネティクス研究の重要性を改めて実感することができました。

また本学会は、以前申請者が留学していた米国国立衛生研究所の近くで開催されたこともあり、学会の合間を縫って留学時代の同僚や当時お世話になった日本人研究者の方々と再会することができました。お互いの近況報告や、日米の研究環境についての議論をすることで非常に刺激を受け、今後より一層研究に励んでいこうと改めて決意致しました。

今回の受賞を励みとし、本学会中に得られたことを活かして研究活動に尽力したいと思っております。